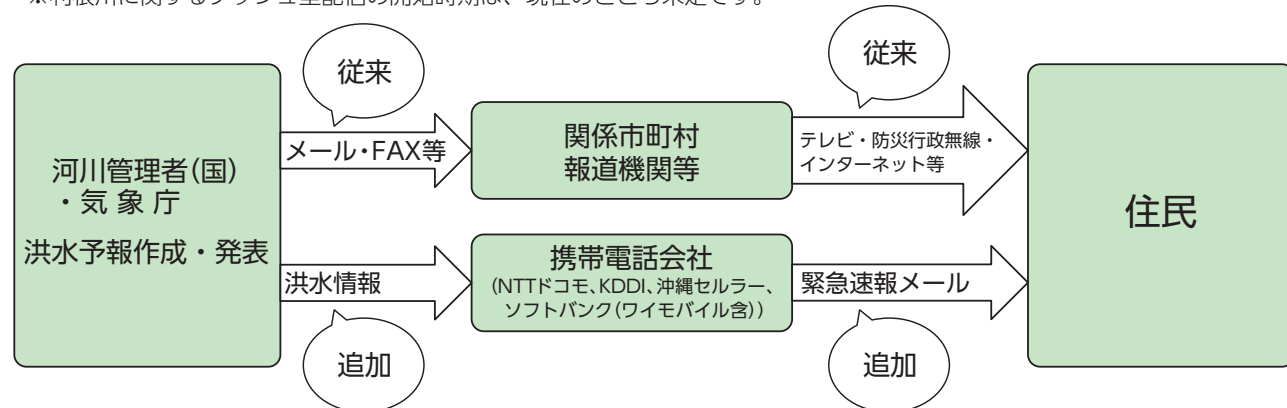


4. 緊急速報メールを活用した洪水情報のプッシュ型配信について

国土交通省では、「水防災意識社会再構築ビジョン」のもと、住民の主体的な避難を促進するため、5月1日から、荒川に関し(埼玉県)、携帯電話事業者が提供する「緊急速報メール(注1)」を活用した洪水情報(注2)のプッシュ型配信を開始しました。

※利根川に関するプッシュ型配信の開始時期は、現在のところ未定です。



出典：国土交通省関東地方整備局ホームページ(http://www.ktr.mlit.go.jp/kisha/river_00000308.html)

注1：緊急速報メールとは

事前の登録が不要で、配信時に特定のエリアにいる方の携帯電話に対して、回線混雑の影響を受けずに配信されるものです。

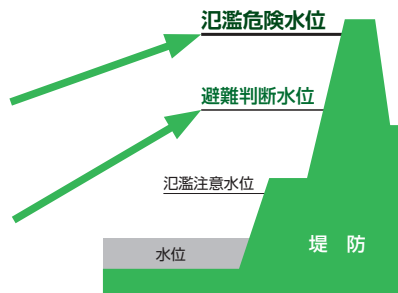
注2：洪水情報とは

河川が氾濫する恐れがあることや、氾濫が発生したことをお知らせするものです。

5. 避難情報の発令(主に利根川と荒川での増水時)

防災行政無線や安全・安心情報メール、緊急速報メールなどで避難情報を発信しますので早めの行動をお願いします。

区分	発令状況	必要な行動
避難指示(緊急)	災害発生時および人的被害発生 の危険性が非常に高い時	命を守る最低限の行動 避難完了
避難勧告	災害発生の可能性が明らかに高 まった時	避難開始
避難準備・ 高齢者等避難開始	災害発生の可能性が高まった時	避難準備 避難行動に時間を要する方は避 難開始



※安全・安心情報メールの登録方法は、市ホームページをご確認ください。

▶問い合わせ 防災安全課防災担当(内線282)または管理課管理担当(内線5703)

夏休み期間の学童保育室 補助員を募集します

- ▶期間 7月21日(金)～8月31日(木)
- ▶勤務時間 午前7時30分～午後7時(シフト制による6時間程度の勤務)
- ▶内容 市内学童保育室における児童の保育、放課後児童支援員の補助
- ▶募集要件
 - ・保育士、教諭を目指している学生(高校生不可)
 - ・59歳までの方で、保育士、教諭(幼稚園・小学校・中学校)などの免許をお持ちの方または子育て経験者
- ▶募集人員 12人
- ▶賃金 時給920円
- ▶申し込み 電話連絡の上、7月4日(火)までに行田市社会福祉協議会へ履歴書(写真貼付)を持参してください。
- ▶問い合わせ 同協議会 ☎557-5400

夏の熱中症予防推進大会

- ▶日時 6月16日(金)午後2時～4時(午後1時30分から受け付け)
- ▶場所 「みらい」文化ホール
- ▶内容
 - 【第1部】
 - ・熱中症予防対策宣言
 - ・熱中症おたすけ隊委嘱式
 - ・救急隊が教える熱中症予防と応急手当
 - 【第2部】
 - ・夏のけんこう気象セミナー
平井史生さん(気象予報士、日本テレビ気象アドバイザー)による講演「気象を知って熱中症予防対策」
 - ・竹下浩一さん(大塚製薬株式会社)による講演「大塚製薬からの熱中症対策の最新情報」
- ▶参加費 無料
- ▶協賛 大塚製薬株式会社
- ▶その他 申し込み不要(先着順、直接会場へお越しください)
- ▶問い合わせ 保健センター ☎553-0053



平井 史生さん

1. 事前の準備と心構え

- ①テレビやラジオ、防災関係機関からの気象情報に注意し、情報収集に努めましょう。
 - ②停電に備え懐中電灯や携帯ラジオの確認をしておきましょう。
 - ③非常持ち出し品の確認をしておきましょう。
 - ④浸水に備えて家財道具は、安全な場所に移動しておきましょう。
 - ⑤市発行の洪水ハザードマップで、自宅や職場が洪水時にどれくらい浸水するか確認しておきましょう。
 - ⑥市発行の防災ガイドブックなどで、指定緊急避難場所や指定避難所を確認し、災害発生時に自分はどこへ避難すればよいか、また、安全に避難できる経路を確認しておきましょう。
- ※洪水ハザードマップおよび避難場所は市ホームページで確認できます。また、各ハザードマップは、防災安全課および各公民館で配布しています。



台風4号の影響で冠水した水城公園(昭和41年6月)

2. 風水害が発生し避難するときは

- ①市やテレビ・ラジオからの避難情報を正確に把握しましょう。
- ②家族と連絡を取り合きましょう(災害時伝言ダイヤル「171」が有効です)。
- ③非常持ち出し品を用意しましょう。
- ④避難所へ避難するか、建物内で避難するかを判断しましょう。
- ⑤避難所へ避難する場合
 - ・電気のブレーカーを切りガスの元栓を締めましょう。
 - ・家族や親戚、知人に避難することを連絡しましょう。
 - ・近所の人に声を掛けましょう。
 - ・特別な場合を除き、徒歩で避難しましょう。車での避難は、立ち往生したり、緊急車両の妨げになったりする場合があります。
 - ・ひもで締められる運動靴で避難しましょう。長靴では、水が入り込み歩行できなくなります。
 - ・つえや傘を持って足元を確認しながら避難しましょう。冠水した道はマンホールのふたがとれていたり、側溝が見えずに転落したりする場合がありますので注意が必要です。
 - ・近道より安全な道で避難しましょう。
- ⑥建物内で避難する場合(夜間や激しい風雨などで避難所まで避難ができないとき)
 - ・自宅や近隣の頑丈な建物に避難しましょう。
 - ・シャッターや雨戸を閉めましょう。
 - ・浸水している場合は、2階以上に避難しましょう。
 - ・突風や激しい風の場合は、窓ガラスが割れる恐れがあるため、カーテンを閉めて、窓の少ない部屋に避難しましょう。

3. 台風の大きさと強さなど

気象庁は台風のおおよその勢力を示す目安として、下表のように風速(10分間平均)をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。「大きさ」は強風域(風速15m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲)の半径で、「強さ」は最大風速で区分しています。さらに、風速25m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲を暴風域と呼びます。

強さの階級分け		大きさの階級分け	
階級	最大風速	階級	風速15m/s以上の半径
強い	33m/s(64ノット)以上～44m/s(85ノット)未満	大型(大きい)	500km以上～800km未満
非常に強い	44m/s(85ノット)以上～54m/s(105ノット)未満	超大型(非常に大きい)	800km以上
猛烈な	54m/s(105ノット)以上		

大型、超大型の台風それぞれの大きさは、日本列島の大きさと比較すると右図のようになります。



台風に関する情報の中では台風の大きさと強さを組み合わせて、「大型で強い台風」のように呼びます。ただし、強風域の半径が500km未満の場合には大きさを表現せず、最大風速が33m/s未満の場合には強さを表現しません。例えば「強い台風」と発表している場合、その台風は、強風域の半径が500km未満で、中心付近の最大風速は33～43m/sで暴風域を伴っていることを表します。なお、台風情報では暴風域を円形で示します。この円内は暴風がいつ吹いてもおかしくない範囲です。

出典：国土交通省気象庁ホームページ(<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/typhoon/1-3.html>)

大雨、台風シーズンを備えて
災害対策をしましょう

間もなく梅雨の季節に入ります。また、梅雨が明けると雷、台風、突風、竜巻、ゲリラ豪雨などが発生しやすくなります。もしものときに備えて、事前の準備と心構えをしておきましょう。